

高齢者をはじめサポートが必要な人の外出を支援する介護技術の専門家「トラベルヘルパー」の活躍で、高齢者の旅の選択肢が広がっている。NPO法人「日本トラベルヘルパー協会」が2009年に始めた認定資格を持つヘルパーは年々増え、現在は本県の約20人を含む500人以上に。ことしから大手旅行会社も参入するなど利便性も向上している。

トラベルヘルパー

「近くの墓参りに行く車いすで段差を乗り越えたい」から「孫の結婚式の準備を手伝いだけではない」という希望まで、長い階段を引上げ、あの手この手で手助けする人を探すが、なかなか見つからない。ヘルパーは、まだ整備されていなくて、家族も外出時の介助に不安があり、潜在需要は大きい。

高齢者の旅手助け

県内に資格20人

【取材】SPIのトラベルヘルパー利用料金は、利用者の介護必要状況(軽・中・重度)と利用時間で異なる。移動、食事、排せつなどを手助けする中(要介護度1、2程度)の場合、必要なら重度の場合、1日2万7千円。合、基本料は1時間3880円(3時間以上)、半日1万6200円、1日2万4840円。おむつ交換や入浴介助などが必要な重度の場合、1日2万7千円。



トラベルヘルパー2人に助けをもらい、東京ディズニーランドへ向かう稲垣博子さん=3月、千葉県浦安市

計画から当日まで

連絡。プラン担当者や前橋市駒形町のトラベルヘルパー、小林里佳子さんが稲垣さんの旅の要望や日常の介護状況を確認し、新幹線を使った日帰りプランを作った。当日朝、新しいピンクのセーターを着た稲垣さんはヘルパーと出発。TDLのシヨールやパレードを楽しみ、ワゴン販売のプレツェルを手にとり、この食歩きがして良かったの」と終始笑顔だったという。

同協会の篠塚恭一理事長は「空港や駅はバリアフリー対応が進んでいるが、問題はその後」と話し、駅までと駅からのヘルパーの必要性を指摘する。「ヘルパーがいればどこへでも行ける。ITの発達で各地のヘルパーとテレビ電話機能で顔を見ながら話ができ、調整が格段にやりやすくなった」と力を込めた。

生活けいざい

シニア

エリア拡大 JT BはSPIと連携し、2月に首都圏発の旅行向けにヘルパーの紹介を始めた。今後、も取り扱いエリアを拡大する方針だ。

エリア拡大

「古里の墓参りをしたい」という要望も多いため、さいたま市の施設で暮らす80代の夫婦は昨年5月、娘夫婦と車いす対応の車で前橋市の墓を5年ぶりに訪れ、旧知の友人と再会した。凸凹道をヘルパーに助けをもらい、墓参りすると涙ぐんだ。埼玉春日部市の山口初位さん(60)は85歳だった父の板橋昌利さん(71)は3月、トラベルヘルパー2人の補